

米国UL寄付講座 明治大学安全学研究所後援

製品と機械のリスクアセスメント

明治大学リバティアカデミー ビジネスプログラム

ULからのご挨拶

Underwriters Laboratories Inc.ことULは、安全に関する業務で世界的に知られている米
国法人で、1894年に設立されて以来、もう100年以上も世界をより安全な場所にするに注力
してきました。ULの組織としてのミッションは、「安全科学と危険に基づく安全工学を適用す
ることにより、安全な生活・職場環境を推進する」ことであり、このミッションの達成を目指し
て、製品安全規格の開発、安全試験の実施、製品の安全認証などの業務を提供しています。子
どもを含む一般市民を対象にした安全に関する啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

日本においては、米国に製品を輸出される日本企業、特に、電気・電子機器の製造者の皆様
より、広くご愛顧をいただいております。UL JapanはULの100%子会社で、伊勢、東京、湘南
に主要事業所を設け、主に製品安全試験・認証、EMC測定などのサービスを通じて、日本の
お客様が米国・日本のみならず世界中の市場に製品を出荷されるお手伝いを提供しており
ます。詳細は、www.ul.com/jpをご覧ください。

この度、明治大学殿のご支持を得て、公共安全の推進という弊社のミッションを体現する安
全学の講座に再び協力させていただくことになり、誠に光栄に存じます。この講座がより安全
な社会の構築に役立つことを切に祈っております。

敬具

オーガスト W シェーファー
上級副社長兼公共安全担当役員



B
u
s
i
n
e
s
s
p
r
o
g
r
a
m
MEIJI UNIV. Liberty Academy



講師からの
メッセージ

製品安全と機械安全について、主にリスクアセスメントの面から講義を行う。まず、製品安全の概念について学習した後、技術、ヒューマンファクタ、社会規範・法制度、等を通じて、具体的な事例を基に、製品安全における消費者の権利、誤使用事故防止、製品のリスクアセスメントなど、多面的に製品の安全確保の方策を紹介する。次に、機械安全の立場から、安全な機械を使って安全に作業すること、すなわち、安全な機械を設計して、安全な生産ラインを構築し、安全な職場で作業することを論じる。受講者は、機械の包括的安全基準や国際安全基準の理解、リスクアセスメント、リスク管理、リスク評価、制御安全の考え方等、製品安全、機械安全の基礎と素養を得ることを目的としている。(注)本講座は、理工学研究科新領域創造専攻の科目である新領域創造特論3を一般に公開するものです。

講座のポイント

- (1) 製品や機械を例題に、安全について広く紹介をします。
- (2) リスクアセスメントについて、具体例を用いて紹介をします。
- (3) 各分野の安全の専門家から話が聞けます。
- (4) 一般の人にも専門家にも学生にも適した講座です。

講座概要

コーディネータ	向殿 政男 明治大学理工学部情報科学科教授 (兼)理工学研究科新領域創造専攻安全学系
会場	駿河台キャンパス リパティタワー6階 1063教室
曜日	土曜日
時間	13:00~14:30 14:40~16:10
定員	50名
回数	16回(8日間)
受講料	10,000円(一般) 8,000円(法人*)
教材	レジュメ資料
ポイント	★★★

*法人会員料金は、「リパティアカデミー法人会員」にご入会いただいている企業の方の料金です。

Greetings from Underwriters Laboratories Inc;

Underwriters Laboratories Inc, or "UL", is a US headquartered company that is known around the world for its work on safety. UL was established in Chicago in 1894 and has been working for a safer world for more than 100 years. Its corporate mission is "to promote safe living and working environments for people, through the application of safety science and hazard based safety engineering", and to achieve it UL develops product safety standards, conducts safety testing and certifies products for safety. Recognizing the growing concern in the world about our environment, UL now also offers environmental certification services. The company also endeavors to educate the general public, including young children, about safety.

UL works with many Japanese companies who export their products to the USA, especially manufacturers of electrical and electronic devices. UL Japan, with offices in Ise and Tokyo is a

wholly owned subsidiary of UL that offers product safety testing and certification, EMC measurement and other services to help manufacturers access global markets, including the USA and Japan. You can learn more about UL by visiting www.ul.com.

With the support from Meiji University, Underwriters Laboratories Family is again honored to donate to Safety Research classes consistent with its corporate mission of promoting public safety and wishes that the class contributes to building a safer society.



Best regards,

August W. Schaefer
Sr. Vice President & Public Safety Officer

コーディネータ・講師紹介 ◆◆◆◆◆



明治大学理工学部情報科学科教授
向殿 政男 (兼)理工学研究科新領域創造専攻安全学系

明治大学大学院工学研究科博士課程修了。専門は、ファジ理論、人工知能、安全学。工学博士。元日本ファジ学会会長、日本信頼性学会会長。現在、安全技術応用研究会会長。日本学術会議連携会員、経済産業省消費経済審議会製品安全部会長、私立大学情報教育協会会長。



株式会社UL Japan マーケティング部・部長
川口 昇

バイオニア(株)にて、通算10年間欧米の事業所でマーケティングに従事。その後、アメリカの安全認証機関であるULの日本法人である(株)UL Japanに勤務し、電気自動車、SmartGrid関連等の新しい分野における安全規格の開発支援、普及を北米本社と連携して行う。現在、同社マーケティング部、部長。



製品評価技術基盤機構製品安全センター参事官
長田 敏

NITEが02~05年度に収集調査した情報によって誤使用事故と年齢等の関係を分析。05年度には消費者向けと事業者向けの2つの誤使用事故防止ハンドブックを作成。また、07年度には我が国の製品安全基準の整備のあり方、08年度にはおしゅれ用カラーコンタクトレンズの安全性のあり方を提言。09年度NITE製品安全センターのテレビ・新聞報道などを担当。



製品安全コンサルタント、NITE技術顧問
松本 浩二

(株)東芝入社後、医療機器事業部門において製品開発業務に従事。その後、PS(製品安全)専門家として社内PSマネジメントシステム構築、PSレビュー業務を担当。退職後は企業のコンサルタント及びNITE技術顧問。専門は、リスクアセスメント及び評価・対策技術としてのR-Map手法の研究と実践。(財)日科技連R-Map実践研究会統括主査。



製品安全コンサルタント、NITE技術顧問
高杉 和徳

(株)東芝・DM社の製品安全専門家を経て現職。(財)家電製品協会、(社)電子情報技術産業協会等の製品安全、品質マネジメントシステム、適合性評価システム等の委員長、主査等を歴任。日本工業標準調査会・適合性評価部会、JNLA電気分科会、JIS原案作成委員会、電気用品調査委員会・部会委員等を歴任し、家電製品の基準・認証制度の創設・運営に従事。



社団法人日本機械工業連合会標準化推進部
宮崎 浩一

明治大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻博士後期課程修了、学術博士。社団法人日本機械工業連合会標準化推進部、ISO/TC 199国内審議委員会幹事、ISO/TMB TAG Guide78委員。その他、(元)CEN/C114/SG(欧州標準化機構)委員、(元)人間特性基盤整備推進委員会委員など。

日程		内容		講師
1	9/29 (土)	安全学から見た 製品安全	安全学とは、安全について、技術、人間、組織等の側面から領域横断的に、包括的に眺める新しい学問であるが、本講座では、製品安全について、安全学の視点から幅広く、その特徴と課題等について考察する。	向殿
2		製品の 安全認証制度について	製品の安全性を高め、安全な世の中を作るためには、法・規制と安全認証制度の果たす役割が極めて大きい。本講義では国ごとに異なる世界の安全認証の理念と制度を概観し、認証制度の重要性と役割について考察する。	川口
3	10/13 (土)	製品の誤使用	製品事故のうち「使用方法等が原因で事故となったもの」は誤使用の事故といわれ、死亡事故、重傷事故につながりやすく、子ども、高齢者などが被害者になりやすい。使う側の視点で実際に発生した事故から、製品の誤使用を考察する。また、誤使用の事故を防ぐのは、誰か。欧州の安全規制、ISO/IECガイド51の制定の経緯、社会的許容される安全とは。リスク低減の順位・方法、組織のあり方など、作る側が配慮すべきことは何か。誤使用はいかにしたらなくなるのか考える。	長田
4				
5	10/27 (土)	製品の リスクアセスメント	安全の概念は、緩やかではあるが時代と共に変化してきている。現在は、強制的な技術基準への適合から、製品の安全性を企業が自主的に評価し、第三者に安全であることを説明できるようにするリスクアセスメントの導入が加速されている。本講義では、リスクアセスメント手法としてのR-Map(リスクマップ、またはアールマップ)を使用して、社会が求める安全レベルまでリスクを低減する方法について理解し、実際に発生した製品事故のリスク評価を実施する。	松本
6				
7	11/17 (土)	製品安全における 管理と事故対応	安全管理はどのように行われるのか。また、安全確保と保証の関係はどのように考えればよいのか。現在の法制度とともに考える。前半では事故を起こさないため(ピフォア-)の製品安全確保策について明らかにする。後半では、事故が発生してしまった場合(アフター)の製品安全確保策について明らかにする。なお、今後の課題等について整理する。	高杉
8				
9	12/1 (土)	機械安全について： 機械安全と国際安全規格	機械安全に関わる国際規格体系とその特徴について解説する共に、国際規格で求められる安全管理の例について紹介をする。特に、国際安全基準であるISO/IECガイド51などを用いて安全の基本的な考え方を説明するとともに、機械類の安全性規準のうち最も基本的かつ広範な内容を持つISO12100で規定されるリスクアセスメントと3ステップメソッドについて説明する。最後に、事故要因として、産業・社会におけるリスク要因について、紹介する。	宮崎
10				
11	12/15 (土)	リスクアセスメントの実際 (1)機械のリスクアセスメント	機械安全設計の原則を定めたISO12100(JISB9700)、リスクアセスメントの原則を定めたISO14121(JISB9702)の両規格に基づいたリスクアセスメントを概説し、その意義を考える。	福田
12		リスクアセスメントの実際 (2)労働安全分野における リスクアセスメントと保護方策	重大災害はむしろ増大の傾向にある。この背後にある根本原因について考察を行うとともに、労働安全分野を対象とした新たなリスクアセスメント手法と保護方策のあり方を提案する。	梅崎
13	1/12 (土)	制御システムにおける 安全	機械の安全を確保するため制御システムの設計ガイドとしてISO13849-1が適用される。信頼性と構造の観点から、事例を交えて解説する。特に、安全管理のリスク評価のなかでも中心となる制御システムの安全確保について解説する。電気・機械エンジニアの設計ガイドである。更に、機械の安全を確保するための電気・電子制御システムの設計ガイドおよび複数の機械を組み合わせたライン・システムとしての安全確保について事例を交えて解説する。電気エンジニアの設計ガイドである。	川池
14				
15	1/26 (土)	生産現場における 安全活動実践論	「安全活動は企業体質を強化するために有効」であり、「安全はマネジメントそのものでもある」と考え実践してきた。トヨタ自動車をはじめとする大企業及び中小企業の具体化した活動の実態とトヨタ生産方式(TPS)との共通の考え方などについて講義する。更に、「安全は現場が納得して活動してこそ本物」といえる。機械安全のリスクアセスメントや機械安全に関する包括指針の具体的な展開事例を紹介する。「本質安全化とは何か、展開の視点は？」などを中心に「モノづくりは人づくり」の本質について解説する。	古澤
16				

(懇親会) なお、最終日の1月26日には、授業終了後、講師と履修者全員参加で懇親会を開催し、フリーディスカッションを行う予定です。



福田 隆文 長岡技術科学大学システム安全系教授

東洋電機製造株式会社設計部、横浜国立大学工学研究院講師を経て、2006年長岡技術科学大学システム安全系准教授。2010年同教授。その間、日本機械工業連合会IEC/TC44委員会主査、日本工作機械工業会電気安全専門部会等委員。日本機械学会、安全工学会、日本信頼性学会等の会員。



梅崎 重夫 (独)労働安全衛生総合研究所機械システム安全研究グループ部長

博士(工学)。民間の電機会社勤務の後、1983年労働省入省。労働基準監督署で安全衛生監督業務に従事した後、1987年に労働省産業安全研究所(現独立行政法人労働安全衛生総合研究所)機械研究部に転任。現在に至る。技術士(総合技術監理部門、機械部門)、労働安全コンサルタント。



川池 襄 社団法人日本機械工業連合会標準化推進部部長

大阪工業大学電子工学科卒。オムロン株式会社欧州現地法人にてPLCのプロダクト・マネージャー、販売会社および製造会社の社長を歴任。28年間の欧州滞在経験を生かして安全事業の立ち上げに貢献。日本機械工業連合会の各委員を歴任。定年退職後、労働安全コンサルタント等のコンサルタント業を営む。2008年より現職。



古澤 登 菱栄工機 技監

(元トヨタ自動車(現)安全衛生推進担当部長)、トヨタ自動車(株)安全衛生推進部所属後、一貫して安全衛生活動の全社統括を担当し各種活動を確立。トヨタグループ等関係会社へ活動を展開。同部の担当部長を経て、平成16年7月に菱栄工機に転籍し代表取締役専務、平成21年6月技監に就任。中央労働災害防止協会や日本機械連合会等の各種委員を歴任。その間、緑十字賞、愛知労働局長功労賞などを受賞。企業指導、講演多数。

「入会・受講申込書」お申込み開始日

会員 9月3日(月)
一般 9月5日(水)

入会申込

ご入会にあたっては、講座案内・ホームページ掲載の「入会と受講のご案内」をご確認ください。
「製品と機械のリスクアセスメント」受講の方は入会金が無料となります。

フリガナ 氏名	年齢 歳	性別 男・女
住所	生年月日(西暦) 19 年 月 日	
<input type="checkbox"/> 自宅住所 <input type="checkbox"/> 会社住所		
電話番号	Eメール	
FAX番号	携帯電話	
勤務先名	部課・役職	
職業	<input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 会社経営・自営 <input type="checkbox"/> 会社役員 <input type="checkbox"/> 学校・医療 <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 専門職(税理士等) <input type="checkbox"/> アルバイト・派遣 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 無職 <input type="checkbox"/> その他	

受講申込

お申込みする講座をご記入ください。
割引対象の方は割引特典申告欄の該当項目をチェックしてください。
すでにリバティアカデミー会員の方は、会員番号などをご記入をお願いします。

講座コード	12210049	講座名	製品と機械のリスクアセスメント
割引 特典申告欄	<input type="checkbox"/> 明治大学カード会員(カード会社名:) <input type="checkbox"/> 学生・生徒 <input type="checkbox"/> 明治大学教職員 <input type="checkbox"/> 特別会員 <input type="checkbox"/> 福利厚生会員*		
会員記入欄 ※会員の方のみ記入	会員番号	氏名	
	携帯電話		

割引制度

明大カード 福利厚生会員 入会金→50%引 受講料→10%引
学生 教職員 入会金→無料 受講料→学割料金
特別会員 入会金→無料 受講料→20%引

*福利厚生会員: 福利厚生倶楽部会員、CLUB CCI会員、ふるむな倶楽部会員、Club Off Alliance、ベネフィット・ステーション会員

お申込み方法

- 1 入会・講座申込
- 2 「請求書」のお届け
- 3 コンビニエンスストアにてお支払い
- 4 「受講案内」のお届け
- 5 受講

FAXの場合

この用紙に必要事項を記入して、送信してください。

03-3296-4542

電話の場合

FAX記入項目に従って、必要事項をお伝えください。

03-3296-4423

ホームページから

URL: <https://academy.meiji.jp>

個人情報の利用目的について

次の目的以外に利用することはありません。
 1. 受講生への連絡及び受講資料
 (受講料振込用紙、受講案内、会員証、教材、アンケート等)の送付
 2. 講座関連情報のご案内
 (パンフレット、チラシ、会報等)
 3. 受講生に関する資料の作成
 (名簿、出欠表、講座履修表、統計資料等)
 なお、会員の情報を会員の同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令等に基づき提供する場合を除く)。会員の個人情報は、明治大学にて厳重に管理いたします。

明治大学でビジネスを学ぶ

ビジネス・プログラム全52コース開講



- まだある、アメリカ小売業に学ぶこと
—最先端の小売ビジネス— **全3回 ¥18,000**
- 論理的思考による問題解決・意思決定力強化講座
実務に即役立つロジカルシンキング **全6回 ¥28,000**
- 団地再生実践講座
プロマネ養成コース **全6回 ¥30,000**
- 「孫子」に学ぶ
—孫正義の「孫の二乗の兵法」を手がかりに— **全6回 ¥26,000**
- サービス・マネジメントとサービス・イノベーション
—サービス社会を生き抜く新しい発想— **全4回 ¥18,000**
- システムで経営を変革する思考と方法
—問題解決に行き詰った時のシステム思考とアプローチ
ワークデザイン・ブレークスルー思考を中心として **全6回 ¥28,000**

無料送付

詳しくは、講座案内パンフレット「ビジネスプログラム」をご請求ください。

資料請求・お申し込み・お問い合わせ



明治大学リバティアカデミー

CAMPUS & OFFICE

駿河台キャンパス・アカデミーコモン11階
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
TEL: 03-3296-4423
FAX: 03-3296-4542
メール: academy@mics.meiji.ac.jp
URL: <https://academy.meiji.jp>

受付時間

■平日 10:30-19:00
 ■土曜 10:30-15:30
 【休業日】
 ●日曜・祝日・8/10~16・
 11/1・12/26~1/7・1/17

- 1 東京から4分、青山から9分、新宿から10分
御茶ノ水から徒歩3分、神保町から徒歩7分。通学に便利です。
- 2 明治大学教授陣による「理論」と「実践」
ビジネス教育に精通した明大教授陣がコーディネータを務めます。
- 3 キャンパスで学ぶ、会員制度
大学図書館の利用、学内書店での割引等の会員特典があります。
- 4 MBAのファーストステップとして
ビジネス・プロフェッショナルへの第一歩を明治大学から。

